

## JFE扇島火力発電所更新計画 計画段階環境配慮書に対する配慮市長意見(案)

### 1 全体的な事項

本事業は、製鉄所の製鉄プロセスで発生した副生ガスを主な燃料とした発電所について、現在の汽力発電方式からコンバインドサイクル発電方式に更新するものであり、これにより一層のエネルギー利用の効率化を図る計画としている。

そこで、環境影響評価方法書以降の図書の作成に当たっては、下記の内容を十分に踏まえるとともに、必要に応じて関係機関と協議すること。なお、環境影響評価を行う際には、最新のデータや知見をもとに、可能な限り予測し得る最大のリスクを考慮しながら進めること。

### 2 個別の環境要素に関する事項

#### (1)大気環境

新1号機の発電方式としてコンバインドサイクル発電方式を選定するに至った経緯について、他の発電方式との比較検討をした上で明らかにするとともに、更新前後の年間の燃料使用量に応じたばい煙の総排出量について記載すること。また、発電用燃料となる高炉ガスやコークス炉ガス等の副生ガスについて、各々の生成過程を明らかにした上で、排出される硫黄酸化物等の大気汚染物質の一層の低減を図ること。

事業実施想定区域の近隣には新設や更新が予定されている火力発電所が複数あることから、周辺の大気環境の状況は将来的には変化する可能性がある。そのため、他の発電所の稼働による影響も考慮に入れながら、可能な限り複合的にシミュレーションを行うことを検討すること。

この他、工事や季節変動等で短期間に高濃度となる場合の影響について考慮し、適切な環境保全措置を検討すること。また、工所用資材等の搬出入を計画している輸送経路沿いに民家等が存在することから、地域における生活環境の保全にも配慮すること。

#### (2)水環境

事業実施想定区域の周辺は閉鎖性の高い海域であり、排水量の増加や温排水によって周辺環境への影響が予想されるため、「水質」や「海域に生息する植物」等の水環境に関する各要素を評価項目として選定すること。また、海水冷却に関して、取放水の水温差を可能な限り低減する方策についても検討すること。

#### (3)生態系

現在、駐車場や緑地等となっている区域に新1号機を建設する予定としている。また、事業実施想定区域ではハヤブサ等の重要な種の生息が確認されている。そのため、既存の緑地の改変を可能な限り避けるとともに、新1号機の建設によって喪失した緑地の代替地の面積を喪失面積と同程度以上とするなど、生物の生息生育環境を積極的に確保すること。なお、緑地の代替に当たっては、既存の緑地との関連性を十分踏まえた内容とすること。

#### (4) 景観

計画段階環境配慮書では、煙突の高さについて4案設定し、それぞれについて大気汚染物質や景観に係るシミュレーションを行っているが、周辺の他の事業所の煙突や敷地内の既存の煙突の状況を勘案しながら、高さだけではなく配置や形状、色彩等についても検討し、検討経緯を明らかにすること。

#### (5) 廃棄物等

工事中及び施設の稼働によって発生する廃棄物については、それらの発生量を明らかにした上で、特に廃棄物の発生抑制の取組を推進すること。

#### (6) 温室効果ガス等

副生ガスの有効利用や、現在よりも熱効率に優れた設備に更新することにより、製鉄所で使用する電力に伴って発生する二酸化炭素の量を低減するとしているが、発電所に係る部分について更新前後の排出量の内訳を明らかにすること。また、工事期間中も含めた一層の温室効果ガスの排出低減対策を検討すること。